

宮古ボランティア NEWS LETTER No.3

Viento (風) 宮古 Estimado (親愛なる) 宮古
発行 札幌教区サポートセンター 2011年10月19日

3月11に起きた東日本大震災から7ヶ月が過ぎました。札幌教区サポートセンターが岩手県宮古市を中心に行っている支援活動は、4月11日から始まり6ヶ月が経過しました。この間、札幌教区の皆様に支えていただきながら、現地で必要とされている様々な活動を行っておりますが、その実施内容をご報告致します。ボランティア派遣は、来年も必要とされる限り期限を区切らず、続行します！！

◆ 「常設サロン・カフェ」でのボランティア

9月1日から宮古市社会福祉協議会の依頼により「常設サロン」も開始しました。「常設サロン」とは、仮設の集会所において住民の来訪による様々な相談などに対応する窓口的役割があり、「移動カフェ」のように飲食物は提供せず、ボランティア1~2名で対応します。また、「移動カフェ」では、飲物の提供を通じて住民の方々が気楽に集まれる場所として活用していただき、時には傾聴や相談などを受けることがあり、衣料品などのミニバザーなども合わせて行っています。

サロンやカフェなどを集会所で開くと、住民の皆さんが手編み物や折り紙などし、少しずつ自主的な交流の場になってきている様子が伺えます。さらに絵はがき販売を支援することで自立への転換の後押しをしていきます。

◆ 「第4回 分かち合いマーケット」

9月18日(日)宮古教会及び小百合幼稚園主催、札幌教区後援にて開催され、約200名の方が来場されました。当日は、「宮古祭り」と開催日が重なり、前回より100人位少ない来場者でした。さらに仮設住宅に入居された方は、幼稚園までの交通手段がない方が多く、相乗りの車で来場された方もいました。今回は、中古の自転車・マシン・アイロンや米などは一部有料とし、他の食品や日用品、冬物衣類などは必要な方々に無料提供しました。マーケットの手伝いは前回と今回の2度させていただきましたが、今回のマーケットに来場された方は、ある程度生活が落ち着き始めているのか、提供予定の食品や衣料品が残ったことを考えると、今後は、仮設住宅での移動カフェや他の町村(山田町や大槌町など)でのバザーで、支援物資を提供する時期に変わってきているように感じます。

札幌教区をはじめ、全国から沢山の支援物資の提供をいただきまして、心より感謝いたします。皆様、どうもありがとうございました。

(北広島教会 花田牧子さんのインタビューより)

◆ 山田町バザー

10月3日(月)宮古市南隣の山田町の小学校にてバザーとコンサートが行われました。宮古市に比べて、被災された方々の食料や生活物資への需要が多いようです。

また、庇延長工事や寒さ対策など、持ち込まれている企画の実施に向けてのニーズ調査も、数か所の仮設で行っていますが、公平性に気を配りながら進める必要があります。国の補正予算進捗状況を見ながら進めています。

◆ 「奏楽 (Sola)」 復興支援コンサート

札幌主席オーガニゼーター、岩崎弘昌さんと若手メンバー「奏楽(Sola)」によるコンサートが宮古で行われました。当初、宮古教会、山口公民館や織笠小学校のみの予定でしたが、岩崎さんの「被災者の方々の顔が見える前で、どこへでも、たとえお1人の方のためだけでも演奏しに出かけたい。」とのお言葉に答えるため地元の社協のご協力を頂き、全7箇所でのコンサートが祈りの内に実現いたしました。



われしました。楽しそうに輝く笑顔で真剣に聴いている姿に、また一生懸命演奏している子供たちの姿に感動し、

クラシック音楽だけではなく唱歌、ポップス、演歌まで演奏され、聴きにいられた方が帰られる時には、涙目で「この音楽・・・いいね～!ありがとう!」とお話しされる方が多く、奏でる音と奏でる人、聴く人との心の交流が見えるようでした。織笠小学校、轟木小学校では演奏の他に子供たちとの交流もあり、実際に楽器を見せながら説明され、始終和やかな雰囲気で行



涙している先生もおられました。奏楽(Sola)が奏でる音の魔力とメンバーのキャラクターに魅せられたようでした。

このコンサートで被災地宮古に1人でも多くの人々に癒しと慰めが与えられますように。ダビデがサウルに安らぎをあたえたように、これからも Estimado (エスティマ)で札幌から宮古へ Viento (風)が届けられますようにと願いを込めて!!



◆ ボランティアのご協力と派遣曜日変更

移動カフェと常設サロンを継続的に関わるために、少なくとも週3名のボランティア派遣を考えております。皆様のご参加をお待ちしております。仕事内容の変化により、ボランティアの年齢制限はなくなりました。(今まで82歳の女性の参加がありました)また、宮古での宿泊・食事代(ただし、共同炊事)のご負担はありません。交通機関は、多くは教区ワゴン車での乗り合わせが可能です。個人で移動される場合は、八戸～宮古間について交通費補助があります。(12月～3月上旬までは、教区ワゴン車ではなく、JR・フェリー等の往復となります)

10月6日(木)から、札幌から宮古へ派遣する曜日が、原則として木曜日の夜に札幌を出発して、翌週の木曜日朝に札幌に帰着する期間に変わりました。この期間以外も可能ですが、個人での移動となります。ボランティアの申し込みを希望される方はご留意ください。(ボランティアの申し込みは、参加される1週間前にはご登録をお願いします。)

《 申込・お問い合わせ先 》

札幌教区サポートセンター (E-mail:officecsd@csd.or.jp Tel: 011-241-2785)

◆ ボランティアに参加された方の感想

「震災の中から出来た絵ハガキ」

今回8月下旬から3週間、震災ボランティアに参加させて頂きました。今は泥の除去やガレキ撤去といった作業の他に、仮設住宅の集会室をまわって住人の方のお話を聴き、ミニバザーを通して衣料品や日用品等必要なものを届ける移動カフェが行われるようになり、主にその活動を行いました。お話しを聞いている中で、仮設に住んでいる人達のストレスや心の問題等も沢山感じました。狭い仮設の中で、遊ぶスペースもなく集会室で走り回る小さな子供や、おじいさんやお父さんと小さな部屋で寝なければならず勉強するスペースも無い受験を控えた女子高校生、一人暮らしでふとんの上げ下ろしにも苦勞するお年寄りの方等・・・。家族も家も仕事も無くなってしまった普段とは違う精神状態の中、隣近所も知らない人ばかりの仮設住宅暮らしで、家から中々出て来られない人も多くいます。そういう中で、嬉しいこともありました。高浜地区の仮設集会室に行った時のことです。3人の女性の方が「来てくれて本当に有り難う」と押し花で作った絵ハガキをくださったのです。聞けば、家もお店もご主人も津波で流されてしまったけれど、この押し花だけはタッパーに入っていたため無事に流れつき、女性の手元にもどってきたとの事。これで皆に感謝のメッセージを送りたいと聞いた時には、思わず涙が出そうになりました。今では、お年寄りや一人暮らしの方が一人で家に籠らないように近所の方達にも声をかけ、皆さんでこの押し花を使ったハガキ制作や、ガラスアートもしているそうです！！

震災から日が経っていますが、まだまだ援助の必要を感じた3週間でした。被災者の方達が一日でも早く笑顔を取り戻せるようにお祈りいたします。

(円山教会 遠藤なお子さん)

「移動カフェのボランティアに参加して」

9月18日から24日迄の期間、4ヶ所の移動カフェを体験させて頂きました。丁度、大型台風とかち合い、毎日雨の日々でした。

毎日、聖堂での祈りから始まり、社会福祉協議会に出向き登録。その都度、ワッペンを受け取りカタカナで氏名を書き、洋服の目立つ所に貼り、指定された仮設住宅へ向います。仮設住宅には、20畳くらいの集会所が1ヶ所付設されており、そこで飲み物を提供しながら、仮設住宅の住民同士が集まる場所を設け、冬物衣類を必要な方に提供しました。お隣さんがわからない仮設住宅では、集まって下さる人数も4～5人と少なかったのですが、集団で仮設に入居している所では、誘い合って25名前後の方が来て下さり、身元、安否の確認や情報交換をされていました。そこで沢山のお話しを伺いました。自然と親しい人々でグループができて話に熱中している中、私の隣りに座っている40歳代の方がボソッと私に言っているのか、どこか見つめるように「私ね、友達と2人で逃げていたの。でも彼女は津波に飲み込まれ、私は浮き上がった所に畳があって、しがみついたの。どうして、2人のうち1人が死んで1人が生き残るんだろう・・・」とつぶやきました。私は、とっさにある聖書の箇所を思い出しましたが、何も言うことができず、彼女と同じ方向をじっと見つめていました。ただ、横に座っていました。あなたなら、どうしますか？私は彼女が回答を求めていたわけではないと思います。回答は自分で探すしかないのです。その後、目が合い、穏やかな目で微笑しました。そのような場面が数回ありました。私は祈らずにはいられませんでした。「神様、どうか、私に相手の心に触れうる透明な心を下さい。そして、あなたの温もりで、出会う人達の心を支えて下さい」と。

私は、私の出来ることをしました。小学校2～3年生の子ども達と全力でオニゴッコをしました。小雨の中、子ども達はキャーキャー走り回り、子どもらしい声と瞳の輝きを見ました。私より年上の方々にのせられ(?)マイクだと杖を渡され、北海盆唄・ソーラン節を踊りまでつけて歌いました。皆、手拍子で一瞬宴会のような盛り上がりで、喜んで下さいました。私の方こそ、出会った方々に感謝申し上げます。

祈らずにはいられない、そして、神様のまなざしをかいま見る日々でした。

(北11条教会 吉村 芳さん)

◆ 宮古へ自転車の提供について

5月末に宮古滞在中に2台の自転車整備をしたことから、仮設住宅に入居されている被災者の方たちに中古自転車を集めて送ろうと思い、町内会の回覧板やライオンズクラブへの依頼などにより、自転車提供の話が進みました。そして、この度37台の自転車を送ることができました。自分は、単に情報を流しただけですが、地域の皆さんは自分ひとりでは対応できないが、誰かが取りまとめてくれるなら色々な提供ができると話していました。田舎に住むのもまんざらではないなという印象です。4トントラックの提供、運転手をかってでてくれた農家の方もおります。また、宮古での住民同士のつながりを考えると、皆さんからの義援金から現地の自転車屋さんへ一定の整備料を払って整備をお願いするのが良いのではと思っています。(月形新田教会 林 英幸さん)

◆ 宮古ベースでのボランティア活動と支援状況

被災地支援募金額は、9月30日現在 2281万円で、支出は766万円。この募金によって、宮古市、山田町などで以下の活動を行い、被災者支援のために皆様の意向を生かしています。末尾はおよその支出額ですが、正式には後日、札幌教区から収支報告をいたします。活動は、来年以降も継続する予定です。

文責：ボランティア担当司祭 上杉神父

- ① 支援物資を届ける：食料、衣類、生活雑貨など生きるのに必要な支援物資を提供しています。宮古教会では「分かち合いマーケット」を4回開催し、約1100人利用。山田町では2回開催し、約600人利用。全国諸教会から送られて来た物資を仕分けし、チラシとFM局などでお知らせ。保管場所が少なく、数日前に着くことをお願いしている。また、現地の経済活動を考慮し、地域の商店から食糧を購入している。
- ② ミニバザー毎日開催：教会やバザーに来られない方のために仮設のサロンやカフェに持っていく。また、困窮者情報があれば、食糧などを届けている。
- ③ 仮設住宅でのカフェとサロン活動：宮古市社協からの依頼の仮設に行き、憩いの場を作り、お話を聞く。カフェ運営と備品、交通費。
- ④ 仮設住宅対策：盛岡市民ボランティアと連携し、玄関の庇の設置、冬季対策
- ⑤ 音楽会や炊き出しイベント：宮古教会信徒の活動への協力、札幌有志の演奏会、その他音楽会などの主催と運営。
- ⑥ 仮設での手仕事の開発：はがき作りの支援
- ⑦ ボランティア派遣の交通費・食費援助、活動備品：現在27週に渡り派遣。本州分の交通費支給（教区車一台に乗り合うフェリー代が主、JR利用の方に費用を支給）、宮古での自炊の食材費、瓦礫の高速洗浄機など
- ⑧ 宮古教会ベースの運営：教会に宿泊。教会備品、消耗品、水道光熱、新聞電話代等。
- ⑨ 北海道に移住した被災者支援：「むすびば」やYMCAなどと連携し、福島から子供の夏休み受け入れ活動や札幌への移住者への支援。

支出内訳

- ①②③⑤⑥：被災者への食糧・物資購入・炊き出し等（約407万円）
- ④⑨：他団体との連携・仮設住宅対策（約76万円）
- ⑦⑧：ボランティア活動費・宮古教会備品（約283万円）